



Rotary



CHINO

ROTARY CLUB OF CHINO WEEKLY



茅野ロータリークラブ

創立1981. 1. 26

茅野ロータリークラブ活動指針

「みつめ直そう！ひとりひとりがロータリー」

2015～2016年度国際ロータリーテーマ

2015 — 2016 会長 矢崎 敏臣 幹事 加藤 宏治

Vol.04 1626 2015.7.22

会長挨拶

皆さんこんにちは。先月になりますが6月14日、15日に、十日町ロータリークラブの会長・幹事・会長エレクト及び理事の皆さんと交流をしてまいりました。こちらからは会長・幹事・副会長の4人で訪問させて頂きました。



皆さんは十日町市をご存知ですか。新潟県の南東部、長野県からは飯山市を抜け栄村から約30分～40分位の所に位置し、豪雪地帯にある人口約55,000人の市です。もう少し有名なのは、魚沼産コシヒカリの中心地帯であります。この市とは縄文つながりがございまして、今から約4,500年前の火焰型土器(これは国宝であります)を所有している市であります。

この市のロータリークラブと交流をした理由は2つありまして、1つは同じ縄文国宝土器・土偶を有する市として、現在行政レベルで交流が始まっているということです。

十日町市の市長さん(関口市長といいますが)、昨年茅野市に来ておられ、又、部課長クラスの来訪も行われている所です。

両市の交流目的として、十日町市は先に述べました、火焰型土器を東京オリンピックの聖火台に採用してもらいたいということで運動を起こしておりますし、茅野市としては国宝土偶を2体も持つ都市として、縄文サミットの第1回開催をこの茅野市で行ないたいという意向を持っております。私たちロータリークラブのメンバーである柳平市長さんの、「行政レベルだけでなく民間レベルでの交流を是非進めてもらいたい」との意向もございました。

2つ目の理由は、我が茅野ロータリークラブの副会長の福島さんの、前の前の赴任地が十日町市であり、心血をそそいで作り上げた当間(アテマ)高原リゾートの視察も兼ねて行ないました。当間リゾートは全面積510haと広大な敷地を有しており、素晴らしいゴルフ場も完備しております。私たちは日曜日と月曜日に滞在しましたが、お客は絶えることなく大勢の人がリゾートを満喫しておりました。

是非、高原都市に住む私たちも、リゾートのあり方について勉強しなければならないのではと感じた所です。

私たちと似た縄文人ですので、縄文のビーナスと仮面の女神のレプリカを土産として差し上げた所、大変喜んで頂きました。今後も何かの機会に交流し、お互いの街づくりについて勉強になればと考えております。

尚、十日町ロータリークラブは創立60周年を迎えたということで大変キャリアのあるクラブです。個人的ではありますが、来年の御柱祭には、会長・幹事・会長エレクト・副会長をお呼びし、その時お世話を頂きました博物館の館長さんもお招待したいと考えております。皆さんも、おもてなしの程宜しくお願い致します。

幹事報告

※別紙幹事報告書

インターアクトクラブに会長賞



サラさん、お帰りなさい！



「皆さんこんにちは。フランスに戻っていましたが、日本が恋しくてまた来てしまいました。まさか、夏休みに日本に来られるとは思ってもみませんでした。皆さんにまた会えてしあわせです。心から感謝しています。今度は日本の大学に入ることを考えています。そして、いつか大人になったときにロータリーのお役に立てることができたらうれしいと思っています。これからもよろしく願います。」

ニコニコBOX

人数
23人
金額
35,000円

- ◎宮坂伸ガバナー補佐 ガバナー共々お世話になります。
- ◎矢崎敏臣会長 望月ガバナー、ようこそ。本日は宜しくお願いします。
- ◎加藤宏治幹事 望月ガバナー宜しくお願いします。サラさんお久しぶり。歓迎します
- ◎桑澤一郎会員 望月ガバナー、ようこそ！サラ、おかえり！
- ◎北原重信会員 望月ガバナー、ようこそ。サラさん、お帰り。
- ◎松木修治会員 サラさん、ようこそ。

出席報告

会員数 55名
出席 42名
出席率 76%

ガバナー公式訪問



ガバナー 望月 宗敬 様



ラビンドラン会長はスリランカで、その人口は2千万人、ロータリアンは1700名で2600地区とそう変わらない地域から選出された。基本方針は、「世界へのプレゼントになろう」、お金を出してプレゼントをするということではなくて自分から汗を流して奉仕をしようということと理解する。

そこで2600地区の方針は、自己の職業を通しての奉仕と考えて「思い起こそうロータリーの心と原点」を地区標語とし、職業奉仕にひとつの方向を見出したい。そして、会員数の減少から地区の運営が厳しくなってきたので「今見直しに勇気を！」ということで相当な改革をやろうとしているので皆さんの温かいご支援とご協力を願いたい。

自分の入会当時は一業種一人の厳格さがあり、業界を代表するという責任と誇りを感じた。入会して2年ほどして、業務の委任者から自分がロータリアンだと知って「それなら安心だ」と言われて、そのときの感動を今も忘れない。ロータリーの信頼度はすごいものだと感じた。

組織において、会員数はひとつのバロメーター。日本ではピーク時から33%減、2600地区は3200名いた会員が今日現在1954名で38%減となっている。

何が原因なのか。ロータリーは、1980年代に財団法人化とポリオ撲滅運動で大きな変化があり、さらに2000年以降には革命的变化が起きている。「今ロータリーは維新の真只中にある」「混沌としている」。

ロータリーの黎明期を思い起こしてみれば、「We serve」を叫ぶ者が離れ、ロータリーは「I serve」を選択した。さらに1923年「決議23-34(セントルイス宣言)」を採択し、そのことを明確にした。つまり、ロータリークラブは会員個人に奉仕をさせるための組織であって、クラブが団体として奉仕することは本筋でない、ということである。「思い起こそうロータリーの心と原点」した所以である。

ロータリーが単なる奉仕団体や寄付団体であるならば、協賛金を出せばそれで終わり。職業分類も例会も必要ない。年1回の総会で済む。確かに時代は変化している。ロータリーの看板である「職業奉仕」の影は薄くなってきていることは確かです。

しかし、今尚「職業奉仕」はロータリーの根幹です。ロータリアンは職業分類で選ばれた職業人の集まりです。ロータリーにおけるあらゆる奉仕活動は、人間性向上の修練のためにあり、修業の結果を世に問うことが職業奉仕です。

私は、「職業奉仕の見える化」を重点事業として掲げた。とかく見えにくい職業奉仕だが、「出前事業」に積極的に行なうことにより、「I serve」に基づく職業奉仕を実感し、実践し、少しでも「見える化」したいという思いからです。

ロータリーは、親睦があるから奉仕の理想を生み出す集団です。ポール・ハリスは、例会に出席すると「童心にかえる」と言った。某先輩からは「例会の1時間は神様になる時間」と教えられた。「神様」とは例会の1時間は人間性を取り戻す時間であると考え。「例会は人生の修行の場」です。それ故例会は楽しく有意義な例会としなければなりません。12時になって「社長どちらへ？」の問いに「うんちょっと」ではなく「ロータリーに行ってくる」の答えに社員から「ご苦労様です」と尊敬された元気に送り出す声が聞こえてこなければいけません。

「決議23-34」を大切に

近年のいくつかの奉仕プロジェクトに伴う財政事情から会員増強、寄付額増大等が重点課題となっており、それに従ってロータリーも急速に変質してきた。人づくりなどという使命は薄れ、いかに「We serve」の輪を拡げるか、そのための拡大と財政基盤の確立にこそ重要目標となっている。「I serve」を目指す本来のロータリーの方向とは明らかに異なってきている。

私たちはR Iの一員です。世界の多数の会員の意向によって決議されるR Iの決定事項は遵守しなければいけないと考える。従ってロータリーが奉仕クラブという性格を持つ限り社会のニーズに従った奉仕活動をする必要はない。しかし、同様にロータリーの根幹である「決議23-34」を大切に職業奉仕を最終目標とする自己修練の旗は決して降ろしてはいけないと考える。

ロータリー活動は「担雪埋井(たんせつまいせい)」の心でやりましょう。

雪をもって井戸を埋める。雪は融けてしまって井戸は雪では埋まらない。しかし、繰り返し繰り返し行ないましょう。つまり繰り返し繰り返し成功するまで行なえば失敗はない、という自身の人生訓です。

ロータリーにこれで良いという終わりはありません。ですから簡単に歳だからといって退会してはなりません。

最後に

ロータリーは素晴らしい魅力を持っています。

有意義な価値ある団体です。

是非ロータリーで学びましょう

『私はロータリアンです。』

『あっ それなら安心だ。』

————— そんなロータリーにしましょう。

甦れロータリー！！